



## 第10回EASTICA(国際公文書館会議東アジア地域支部)セミナー及びIACE2010(国際アーカイブ文化展示会)参加報告

神戸大学 **佐々木和子**  
Kazuko SASAKI

### 1、概要

EASTICAは、国際公文書館会議(ICA)の地域支部の一つで、1993年に東アジア地域の支部として設立された。加盟国・地域は、中国、日本、マカオ、大韓民国、モンゴル、香港、朝鮮民主主義人民共和国の5か国2地域。全史料協は、設立当初よりカテゴリーBメンバー(全国・地域レベルの文書館団体)として、EASTICAに参加している。



EASTICAは、総会は隔年、総会のない年には役員による理事会が開催される。また、総会・理事会に伴い、セミナーが開かれている。今年は総会のない年にあたり、理事会とセミナーが開催された。会場は、コエクス(COEX、韓国・ソウル)、6月1日から開かれたIACE2010(国際アーカイブ文化展示会)にあわせ、5月30・31日に開催された。筆者

は、5月31日のEASTICAセミナーと6月1・2日のIACE2010国際セミナーおよび韓国国家記録院ナラ記録館等の見学に参加した。なお、日本からの参加者は、国立公文書館館長高山正也氏(EASTICA議長、2007年～2011年日本が議長国)をはじめとする国立公文書館関係者10名、京都大学図書館の古賀崇氏が参加した。

### 2、EASTICAセミナー

2010年5月31日		於：COEX会議室
セッション1		
午前	登録・開会式：	
	基調講演①	Joan van Albada (ICA フェロー) / アクセスと職業倫理
	基調講演②	Sarah Choy (香港立法会) / 記録のアクセスにおける法的側面
午後	基調講演③	Mun-won Seol (釜山国立大学) / アクセスを越えて：公共記録とアーカイブの利用促進と再活用における問題
セッション2		
午後	国・地域別報告	中国：中国档案館の公共サービス能力
		日本：国立公文書館の利用
		韓国：記録、現用利用と改善計画の開示
		マカオ：アクセス：倫理的、法的、技術的問題
	モンゴル：アーカイブのアクセスと倫理問題	
		閉会式

EASTICAセミナーのテーマは、「アクセス：倫理的、法的、技術的問題」(Access: Ethical, Legal and Technical Issues)であった。朴相徳 (Sang Duk PARK) 韓国国家記録院長は、そのあいさつで、このテーマについて、「情報交換、アーカイブアクセス、サービスの利用に対する利用に対する需要は、近年のIT技術の進化に伴い、急速に増加している。さらに、アーキビストの運営上、管理上の義務は、より複雑に、より激烈になってきている。アーカイブの管理は、法制度、IT化の進捗状況、行政上の優先順位の点からみると、国ごとに異なっているが、このセミナーの議論を通じて、アーカイブのアクセスについての理解と見識を高める機会になることと思う」と述べた。

筆者が興味深かったのは、Joan van Albada氏の基調講演の中での「アクセス」の定義である。職業倫理 (Professional Ethics) との関係で述べる前提として詳細に説明された。英語圏以外の者にとって複雑なものを含むものであり、定義を細かくしていくことで、同じ立場で議論が可能になっていくとの説明であった。なお、アクセスとは、「検索補助手段 (資料目録) などを用いて、関連のある情報を検索する能力」「法律に定められた制約の中で、照会のために情報を検索、閲覧する許可」まで含む概念ということであった。言語が異なり、概念の含意に差のある国際会議での難しさとともに、同氏から公でなくても、まず信用のできる人と心を共有することからの示唆に、教えられることが多かった。

### 3、国際アーカイブ文化展示会 (International Archival Cultur Exhibition 2010)

テーマ：記録遺産、アーカイブズ、技術  
(Documentary Heritage, Archives, and Technology)

#### ①IACE2010 セミナー

国際アーカイブ文化展示会		
2010年6月1日		於：COEXホール
午前	国際アーカイブ文化展示会 (IACE) 2010開会式 会場見学	
午後	IACE セミナー開会式	於：COEX会議室
セッション1 アーカイブ文化：記録遺産のルネッサンス		於：COEX会議室
午後	基調講演	Lewis Bellardo (ICA副会長、合衆国アーキビスト上級顧問)：米国国立公文書館の戦略的方向とアーカイブ文化の一般認識を喚起するアプローチ
	講演②	David Leitch (ICA事務局長)：記録／アーカイブの価値を強力に支持する国際機関の役割
	講演③	Mr. Herve' Lemoine (SIAFディレクター)：フランスの記録遺産と次世代に伝える国家努力
	講演④	Prof. Young-Woo Han (梨花女子大学校碩座教授)：韓国の伝統的な記録文化の継続に向けた措置
2010年6月2日		
セッション2 変化する時代のニーズを満たすアーカイブズ機関の役割		於：COEX会議室
午前	講演①	Mr. Ross Gibbs (オーストラリア国立公文書館長)：変化する時代におけるアーカイブズ機関の戦略的施策
	講演②	Prof. Dr. Angelika Menne-Haritz (ドイツ連邦公文書館副館長)：ドイツ連邦公文書館の現状と戦略的方向
	講演③	Mr. Sang Duk Park (韓国国家記録院長)：韓国におけるアーカイブズと記録管理の進展

セッション3		於：COEX会議室
アーカイブ管理技術の今日の動向と将来展望		
午後	講演①	Mr. Dai-hyun Yoon (韓国国家記録院記録管理部長)：韓国におけるアーカイブズ管理技術の今日の動向と将来展望
	講演②	Mr. John Frost (ARMA国際ショナル理事長、米国)：米国におけるアーカイブズ管理技術の今日の動向と将来展望
	講演③	高橋道彦氏 (JIIMA理事長、日本)：日本におけるアーカイブズ管理技術の今日の動向と将来展望
	講演④	Prof. Byungho Song (祥明大学校教授、韓国)：韓国における電子記録管理技術：動向と将来展望
閉会式		

②IACE2010 (国際アーカイブ文化展示会)

IACE2010(国際アーカイブ文化展示会)は、6月1日～6日まで、COEX 1階ホールで開催されたアーカイブに関する展示会である。

同展示会は、文化遺産に関する展示エリアとアーカイブに関連した企業の展示エリアに分かれていた。企業展示エリアには、韓国、欧米から67団体が出展、文化遺産展示エリアでは、1) UNESCO世界記憶遺産に登録された記録資料 2) 世界の国立公文書館による展示 3) 韓国の歴史と文化をたどる記録資料が展示された。UNESCO世界記憶遺産では八万大蔵経、ゲーテンベルク聖書、グリム兄弟童話コレクション、朝鮮王朝実録など貴重な資料が展示された。また、国連をはじめ18カ国の各国の公文書館が参加し、アーカイブの展示をおこなった。

同展示会の特徴は、体験・実演コーナーが、非常に充実していたことにある。紙づくりや古書づくり、拓本づくり、国璽押し体験など、訪問者が直接参加できるものが多数準備された。実際、たくさんの親子づれが、植物から繊維を取り出し、紙すきをおこなう紙づくりから和綴じ本の体験などに興じていた。その様子をまじかにみて、デジタル情報が当たり前になっている時代だけに、韓国が記録や文化の基本から次世代に引き継ごうとする姿勢に感銘を受けた。

国家記録院ナラ記録館でも、子ども達の見学のためにパンフレットやコーナーを作り、積極的に受け入れている様子を見て、韓国のアーカイブ教育の射程の長さには驚いた。

